

フクシマから避難してきた堀川文夫様のメッセージ

2015年3月11日

私は、東京電力福島第1原発事故により、浪江町から富士市に避難している堀川文夫と申します。

私の家は幸い津波の被害は受けなかったのですが、戻って暮らすことができなくなってしまいました。

私の故郷、浪江町は東北にしては温暖な気候で、自然豊かな田舎の町でした。

山では、春は山菜、秋はキノコを採り、海では「常磐モノ」として東京の築地市場でも他の産地より割高なブランド魚が捕れていました。

そんな浪江町で生まれ育ち、生きていました。今は亡き父母や祖父母、そして先祖のみんなが培ってくれた、人との繋がりの中で暮らしていたのです。

それがあの日、奪われてしまったのです。

私だけでなく、あの広大な地域に住む人々すべての暮らしが丸ごと奪われてしまったのです。

あれから4年が経ちました。

最初の頃は、放射能のせいで何もできないまま放置されていましたが、今は「復興」の名のもとに帰還政策が推し進められています。

国道6号線の規制解除、常磐自動車道の全線開通、ガレキの減容化のための焼却施設建設、港や防波堤の修復と、まるで放射能汚染など無いかのように、工事が行われています。

すぐそこに、未だ収束とは程遠い、壊れた原子炉があるにも関わらず。

できるものなら帰りたいです。

帰りたくて、帰りたくてたまらないです。

でも、そういう私たちの気持ちを利用して、事故とその被害を矮小化し、全国の原発再稼働を急ぐ今の政府のやり方を、私は断固許せません。

それによってどれだけ多くの子どもたちの健康がリスクにさらされ、損なわれ、悩み苦しむ親たちをそのままにしているか。

ここ静岡も他人事ではありません。ひとたび大地震が起きれば、東日本大震災の何倍もの被害が予想され、福島第1原発事故以上の放射能汚染が東海、関東地方に広がるでしょう。

そうなる前に、せめて防げることは防ぎましょう。

浜岡を空炉にして、放射能から故郷を、そこでの暮らしを守ってください。